

町内小中学校の野球少年が

日本ハムファイターズの選手と交流

北海道日本ハムファイターズの「植樹祭・野球教室」

12月1日、2007年のプロ野球パシフィックリーグで2年連続の優勝を果たした北海道日本ハムファイターズで、シーズンを通して重要な中継ぎ投手として活躍した江尻慎太郎投手と押本健彦投手を招いて、町内から応募した小中学生が参加して「植樹祭」と「野球教室」が行われました。

「植樹祭」は、かなやま湖畔の「アオダモの森」で行われ、江尻投手と押本投手が来賓とともに、ファイターズのパリーグ2連覇を記念して、高さ3メートルのブンゲンストウヒを植樹したほか、参加した18名の子ども達とともに、バットの原木となるアオダモの苗木を植えました。



△記念植樹を行う押本投手(前)江尻投手(後)

続いて、南富良野高校体育館で、町内の小中学生32名のほか、空知川を通じた水源交流を行っている滝川市の少年野球倶楽部の21名も参加して「野球教室」が行われました。

野球教室では、江尻・押本両投手から、守備やバツティングなどの基本プレーについて、実演を交えながら指導が行われました。

まず、ウォーミングアップを兼ねて、体育館を3周したあと、キャッチボールを行いました。江尻投手から、ボールを捕るとききの大事なポイントとして、「ボールを捕る姿勢は、一番動きやすい姿勢を心がけ、ボールを捕るときはケーキだと思って1球1球両手で大事にとること。」とアド



△江尻投手の指導を受け練習に取り組む小学生



△押本投手と打撃練習に取り組む中学生

バイスを受け、子ども達は真剣な表情で取り組んでいました。途中、押本投手がキャッチボールを披露し、自慢の剛速球が江尻投手に投げ込まれると、子ども達からは、「すごい。」と驚きの声が上がりました。

打撃練習では、江尻投手から「ボールをよく見て、体を大きく使ってスイングしてください。」と指導を受け、子ども達は、江尻・押本

両選手がトスするボールに力いっぱいバットを振り抜いていました。打撃練習終了後には、質問タイムが設けられ、子ども達は、「最高球速は何キロですか。」「一番苦手なバツターは誰ですか。」などとたくさん質問を質問し、江尻・押本両投手は、笑顔で答えていました。

講評では、まず江尻投手が、「今日練習したことをチームに帰ってからもお互いに教えあって練習してくだ



△幾寅タイガースの子ども達が江尻・押本両投手と記念撮影

さい。皆が上手になってファイターズに入ってくる日を楽しみにしています」と話し、押本投手は、「今日は楽しかったです。自分はあるけど何年ファイターズにいるかわからないけれど、頑張っって皆がファイターズに入ってくるのを待っています。」と話していました。

最後には、子ども達に江尻・押本両選手からサイン色紙がプレゼントされ、子ども達は大喜びでした。